

令和5年第1回北海道議会定例会 一般質問 開催状況  
 (経済部経済企画局経済企画課、経済部環境・エネルギー局環境・エネルギー課)

開催年月日 令和5年2月27日  
 質問者 日本共産党 宮川 潤 議員  
 答弁者 知事、経済部長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>四 原発・エネルギー政策等について</b>                      (一) 電気料金について                      (宮川議員)                      次に、原発・エネルギー政策等について、まず、電気料金についてです。                      現在、エネルギー価格高騰の影響を受けている事業者への支援はありますが、道民への支援はありません。道民への影響は深刻であるという認識をお持ちですか、広く道民への支援を行うべきではありませんか。お答えください。</p> <p>(二) 化石燃料への依存について                      (宮川議員)                      北電は、燃料価格高騰などを値上げの理由としていますが、重要な問題は、原発依存を前提とし、再生可能エネルギー導入の努力が不足し、化石燃料への依存が高いことなのではありませんか。お答えください。</p> <p><b>【再質問】</b>  <b>四 原発・エネルギー政策等について</b>                      (二) 化石燃料への依存について                      (宮川議員)                      北電の電源構成における火力発電は、74パーセントにおよび、沖縄電力に次ぐ多さであります。                      北電の化石燃料依存体質は、非常に強いと言わざるを得ませんが、知事の認識はいかがか伺います。                      また、北電は「再生可能エネルギー発電の導入拡大」について「2030年度までに道内外で30万キロワット以上増やす」としていますが、東北電力は200万キロワット、東京電力は600万から700万キロワット、中部電力は200万キロワットなどとしていることと比べ、著しく見劣りすると受け止めていますが、知事の認識はいかがか伺います。</p> <p><b>【再々質問】</b>  <b>四 原発・エネルギー政策等について</b>                      (二) 化石燃料への依存について                      (宮川議員)                      知事は、北電が再エネ導入拡大に取り組んでいるという答弁でありましたが、取り組むことは当たり前であります。問題はどれだけ取り組むのか、その量とスピードであります。他の電力大手と比較して、北電の再エネ導入目標量は一桁少ない。取り組む志が低いということではないですか。知事はそれで良いという認識ですか。改めて伺います。                      北電に対して働きかけるお考えはありませんか。あわせて伺います。</p>	<p>(経済部長)                      電気料金に係る支援についてであります。エネルギーや食料品等の価格高騰が長期化する中、関係団体へのヒアリングでは、「子育て中の家庭では物価高騰の影響が大きい」といった声が寄せられるなど、道民の皆様の生活は、大変厳しい状況にあると認識しております。                      道といたしましては、影響を大きく受ける子育て世帯に対しまして、生活に欠かせない米券や牛乳券を配付する事業を行っており、引き続き、生活への影響の把握に努めながら、国に対し、家庭などを対象に9月まで実施している電気料金引き下げをはじめとした影響緩和策の拡充を要望するなど、適切に対応してまいります。</p> <p>(経済部長)                      北電における再生可能エネルギーの導入についてであります。北電の2021年度の電源構成では、火力発電の割合が74パーセントとなっております。北電では、カーボンニュートラルの実現に向け、2030年までに、再生可能エネルギーによる発電を、30万キロワット以上増加することを目指し、未利用材を活用したバイオマス発電や、洋上風力発電の開発に参画するほか、再エネ余剰電力を活用した水素製造のプロジェクトに取り組むこととしていると承知しております。</p> <p>(知事)                      北電における再エネの導入についてであります。電力は、安全性、安定供給、経済効率性、環境適合を基本として、社会経済の変化にも柔軟に対応できるよう、多様な電源構成とすることが重要であります。                      北電においても、こうした考えの下、電力の安定供給に努めるとともに、バイオマス発電や洋上風力発電、再エネ余剰電力を活用した水素製造のプロジェクトなど、再エネの導入拡大に取り組んでいると認識をしております。</p> <p>(知事)                      北電における再エネの導入についてであります。北電では、2030年までに、再エネによる発電を30万キロワット以上増加する目標を早期に達成をし、その後も積極的な積み増しを図るとしているものと認識をしております。                      道としては、これまでも北電に対し、再エネの導入拡大について働きかけをしてきており、今後とも適切に対応してまいります。</p>